

30P2-am141

プロテオミクス解析を用いた Traf3ip2/Act1 欠損マウスの病態解析

○平原 きずな¹, 羽二生 久夫², 鈴木 佳代³, 石川 えり³, 仲宗根 佑¹,
大澤 雄一郎⁴, 岸野 亨⁴, 井上 俊夫¹, 河村 剛至¹, 佐古 兼一¹, 木村 正幸¹,
松田 佳和¹, 松島 芳文⁵(¹日本薬大, ²信州大カーボン研, ³信州大ヒト環境セ, ⁴埼玉
玉医大総合医療センター, ⁵埼玉県立がんセンター)

【目的】 Traf3ip2/Act1 欠損マウスでは NF- κ B の活性化と IL-6 やケモカインの調節異常によって、乾癬に類似した症状を示す。本研究では、Traf3ip2/Act1 欠損マウスの病態生理学的機序を解明する目的で、症状発症期の白血球についてプロテオミクス解析を行った。

【材料・方法】 引っ掻き行動を示した Traf3ip/Act1 欠損マウス (35 週齢、雌雄各 10 匹) の腹腔大動脈から全血液を採取し、白血球分画を得た。この白血球分画を LC-MS (Xevo™ QToF MS/nanoACQUITY UPLC system ; Waters) で 3 重測定した。測定結果は ProteinLynx Global SERVER™ (Ver2.4 ; Waters) のノンラベル定量解析である MS^E モードで比較定量した。

【結果・考察】 プロテオミクス解析の結果、Traf3ip2/Act1 欠損マウスにおいて BALB/c マウスに対して雄で 16 個、雌で 4 個のタンパク質の変動が確認された。雄雌で引っ掻き行動に差は認められなかったことから、雄雌で共通した 3 つのタンパク質 (Platelet glycoprotein Ib beta chain, Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein F、および Hist 1h 1b protein fragment) が Traf3ip2/Act1 欠損マウスの病態に関与している可能性が示唆された。現在、これらのタンパク質の挙動が病態の発症・進展にどの様に関与しているかを検討中である。